



春秋ごとうに句うなり

低学年棟耐震及び大規模改修完了

～ トイレも完成 ～

低学年棟の工事がほぼ完了しました。足場の解体作業が始まっており、きれいになった壁面が姿を現してきています。足場は、引き続き、職員室、体育館、児童昇降口へと移動し、組立が行われます。

低学年棟の主な工事内容は、次のようなものです。

耐震補強のための耐震スリットを各教室の間に入れる。
外壁のひび割れを補修し、吹き付けを行って、化粧直しをする。
雨漏りを防ぐため、防水工事を行い、屋根をはり直す。
トイレの全面改修を行う（和式・洋式を半分ずつ）。
テラスを塗り直すとともに、鉄柵をかさ上げして危険をなくす。 等

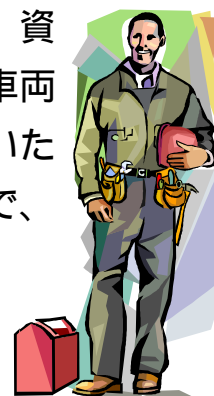


待望のトイレが完成したことは、何よりもうれしいことです。これから気持ちよく使わせていただくとともに、きれいにして、次の学年に譲っていかれるようにしたいと思います。

工事中は、騒音や振動、ほこり、におい等で、学習等の迷惑をかけました。

その一方で、工事関係者の方々は、資材運搬の際の児童の往来への注意、騒音・粉塵への気遣い、工事車両の出入りの際の事故防止等、さまざまな配慮して作業をすすめていただいています。児童の負担を軽減しようと、下校後から夜遅くまで、また、土日返上の作業を続けてくださっています。

学校では、児童が感謝の気持ちを持ち、事故のないように工事がすすむようにと、次のような指導をしています。



廊下は右側を歩く

工事場所に入らない

あいさつをする

これから、いよいよ工事も本格化し、二学期からは高学年棟へと工事が移ってきます。ご迷惑をおかけしますが、安全に工事がすすみ、きれいになった学校で全校児童が笑顔で学べるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

前は「ありがとう」「すみません」の2つの言葉のよさについて紹介しました。今回は、あいさつの大切さを述べてみます。

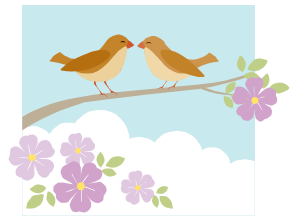


あいさつをするとよいことがある



あいさつは、人と人との関係を円滑にする役割があります。社会生活のマナーでもあるため、しっかりできないと、そこで自分の評価を下げてしまうことにもつながりかねません。大切なソーシャルスキルです。

発達障害があると、とかく初対面の人には苦手なもの。しかし、あいさつの習慣を身につけておくことで、自分が助かることができます。今回は、その中の2つを紹介します。



その1 あいさつをするとやる気がでる（情緒が安定する）

おうちでは、朝起きて、「おはよう」とお互いに声を掛け合っていますか。家族がまずニコリとする。「今日は、学校で何があるの?」「そう、がんばってね」と会話も弾みます。笑顔の応援で、「よし、今日も1日がんばるぞ!」という気持ちになります。



気持ちよく登校すると、友達とも楽しく顔を合わせることができます。ここで1組、あそこで1組と、気持ちのよいあいさつを交わすことが、学級の雰囲気をもよおさせていきます。友達関係が円滑であれば、自然に授業にも集中でき、前向きに学習することができます。


家庭でのあいさつが、その日1日を左右するのかもしれませんが。

その2 あいさつによってコミュニケーションが始まる

「こんにちは」「はじめまして」がきちんとできれば、会話の取っかかりができます。人と人が出会い、会話を交わすための、最初の一步があいさつなのです。

あいさつができる子は、自然に人との会話も増えます。語彙が増え、言語能力が高くなります。あいさつはしつけだけではなく、人間関係の構築や学習の基礎にもなるのです。

あいさつの基本

- 1 まず自分からする
- 2 笑顔で元気に 
- 3 相手と視線を合わせて
- 4 明るくはっきりとした口調で
- 5 背筋をしっかり伸ばして